

会派研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 嶋内九一

1 日 に ち	令和4年 10月19日(水)・20日(木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	全国市議会議長会研究フォーラム 主催：全国市議会議長会 会場：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）
3 参 加 者	嶋内九一 若尾敏之 柴田雅也 吉田企貴 城處裕二 玉置真一 山田 徹
4 調査・研修の テーマ	デジタルが開く地方議会の未来
5 主な内容	<p>【基調講演】 『コロナ後の地域経済』 富山和彦氏</p> <p>【パネルディスカッション】 『地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性』</p> <p>【課題討議】 『地方議会のデジタル化の取組報告』</p>
6 所感、提言事項、 課題等	<p>【議員氏名】嶋内九一 議会がデジタル化を進める事は議員だけでなく、市民も市政により関わることができる環境を整える要素となると認識した。そのために、まずはできるデジタル化を取り入れて、苦手意識を取り除いて、進めていくことであると思った。</p> <p>【議員氏名】若尾敏之 コロナが発生していろいろな多くの状況が変わった中で議会のデジタル化も注目され全国の市議会でも多く取り入れられるようになりました。結果、デジタル化として委員会等のオンライン開催が令和3年は全国で17.4%であり、それに対して会議規則や条例を改正したのは9.4%であった。タブレット端末の普及状況は全議員で導入しているのは51.9%、本会議場でタブレットを持ち込むのは希望者も含めて58.5%とこちらは、進んでいるように思われる。今回のフォーラムでも、とりあえずタブレットの導入を進める声が多かったように感じました。中には「習うより慣れよ」ととりあえずの導入を述べられるパネラーも見受けられました。とりあえずの導入でも費用はかなり掛かるので、慎重な体制が必要であり議会主体か執行部主体かも含めて検討が必要であり、コロナが収束してもやるべきである、との見通しを立てて、導入に踏み切るべきであると感じました。</p>

<p>6 所感、提言事項、 課題等</p>	<p>【議員氏名】柴田雅也 議会のDX化の目的として何のためにDX化をするのか？をしっかりと押さえてデジタル化を進めなければ、議会の役割として、意味をなさないと感じた。それはペーパーレスという表面的な問題ではなく、オンライン化により、コロナ禍や災害と言う危機への柔軟な対応や議員の成り手の多様化に向けて、立候補しやすい環境の土壌を整えることである。育児中、介護中など、これまで議員に立候補する事に躊躇していた人材も立場を背景にして、議員活動できる環境をつくることは、これから求められる議会像であると思う。今後の議員の成り手不足を解消する事においても、大きな変革であると認識した。</p> <p>【議員氏名】吉田企貴 4年ぶりの全国市議会議長会だったが、コロナ禍を乗り越えつつ盛大に開催された感があった。講演やパネルディスカッションを通じてDXの導入については、他の課題と同じく、目的と対象を明確にして取り組んで行く必要を再確認した。制度ありきではなく、課題認識を前提とした議会改革が求められてくるものと強く感じた。</p> <p>【議員氏名】城處裕二 初めての全国市議会議長会研究フォーラムへの参加となった。全国各地から大変多くの参加者が有り、開催地への経済効果も大きいと感じた。 今回の研究フォーラムのテーマは『デジタルが開く地方議会の未来』。自治体DXとか、何かに付けてデジタル化が取りざたされる中、この技術はあくまでも手法であり、目的をしっかりと見極めて取り組まないといけないと感じた。コロナを経験した中でのリモートを活用した会議、また広報広聴における可能性など、何が出来、何に利用するのかをよく見極め、タブレットの導入とかペーパーレス等、手法が目的にならないようにしたい。</p> <p>【議員氏名】玉置真一 デジタルが開く地方議会の未来。地方議会でもデジタル技術を活用することによる、市民へより透明性のある開かれた議会への取り組みは重要と考える。市民と双方向の対話、市民の向上につながるこの話が有りましたが、対話の先の市民とは自治会組織の代表者なのか各種団体の代表者もしくは一般の市民なのか、どのように双方向の対話をするのか疑問に感じた。 富山氏の講演では地方公共交通の維持存続に向け、みちのりホールディングスの取り組みについて活用事例の話が有った。多治見市も民間との協力により、あいのりタクシー、AIよぶくるバスの運用を行っている。今後、より市民へ寄り添った利便性を考え、ICカード決済を含むキャッシュレスワンオペシステム、オンデマンド化、先日話題になった自動運転への備えなど即急の課題と感じた。 「地方議会のデジタル化の現状と課題と将来の可能性」についてのパネル</p>
---------------------------	---

ディスカッションでは、ある意味コロナ禍でデジタル化が急務であった一方デジタル化に向けた人材の育成が課題だったとの話が有った。開発する側も使う側も知識を深めることが重要課題と再認識した。災害時、議会、市民との対話にタブレットを利用することに関しては、非常に有効ではあるが、ガイドライン、セキュリティなど課題は多く慎重に進めるべきだと思う。

【議員氏名】山田 徹

今後の地方行政の在り方が大きく変わっていくことを実感するフォーラムだった。コロナ禍が大きなきっかけとなり時代が急速に変化した。今後の議会の在り方もオンラインでの会議や視察も一般的になっていくと思う。デジタル化の目的は、議会の ICT 化や、ペーパーレス化ではなく、いかに市民の皆様に対して情報を発信するかであり、皆様の声が聴けるのかである。タブレットやノート PC の導入で終わることなく、その先をしっかりと踏まえて議論することが必要だと感じた。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、
研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。